



**Hitachi Systems**  
**Security**  
**Journal**

**VOL.29**



T A B L E O F C O N T E N T S

---

新実行委員長に聞く SECCON 2018 の見所と楽しみ方 花田智洋 インタビュー .....	3
---	---

---

●はじめに

本文書は、株式会社日立システムズの公開資料です。バックナンバーは以下の Web サイトで確認できます。  
<https://www.hitachi-systems.com/report/specialist/index.html>

●ご利用条件

本文書内の文章等すべての情報掲載に当たりまして、株式会社日立システムズ（以下、「当社」といいます。）といたしましても細心の注意を払っておりますが、その内容に誤りや欠陥があった場合にも、いかなる保証もするものではありません。本文書をご利用いただいたことにより生じた損害につきましても、当社は一切責任を負いかねます。

本文書に記載した会社名・製品名は各社の商標または登録商標です。

本文書に掲載されている情報は、掲載した時点のものです。掲載した時点以降に変更される場合もありますので、あらかじめご了承ください。

本文書の一部または全部を著作権法が定める範囲を超えて複製・転載することを禁じます。

## 新実行委員長に聞く

# SECCON 2018 の見所と楽しみ方

## 花田智洋 インタビュー

取材・文・撮影 = 斉藤健一

### 規模拡大を続ける SECCON

斉藤（以下 **S**）：2018年3月にSECCON実行委員長を竹迫良範氏から引き継いだと聞いています。12月の開催直前の時期で恐縮ですが、今回のSECCONについて話を伺いたと思います。よろしくをお願いします。

花田（以下 **H**）：こちらこそ、よろしく申し上げます。

**S** まず、SECCONの開催時期について伺います。これまで毎年2月に開催されてきましたが、今回は12月へと前倒しとなりました。この理由を教えてください。

**H** 理由はいくつかあります。まず、2月は年度末を目前に控えた時期であり、業務が立て込んで時間の確保が難しいスタッフが多数いるという点。また、2月～3月はサイバーセキュリティ月間で、さまざまなイベントが目白押しとなりスケジュールの調整に苦労する点。他にも2月だとCTFに参加する学生が試験の時期と重なってしまう点などが挙げられます。

**S** 開催を前倒しにすると、その分準備期間が短くなりますが、何か苦労されたことなどはありますか。

**H** 仮に準備期間をどれだけ長く取ったとしても、開催直前の忙しさはさほど変わらないと思っています。やはり覚悟を決めてことにあたるしかないですね。ただ、今回残念だったことが1つあります。

**S** それは何でしょう。

**H** 開催時期の変更に伴いCTFのオンライン予選の日程を変更したのですが、それがGoogle主催のCTF大会と重なってしまったのです。SECCONに毎年出場するような欧米の常連チームから予選



花田智洋（はなだともひろ）

2005年日本アイ・ピー・エムに入社。銀行基幹系システムの開発にプロジェクトマネージャーとして携わったかわら、九州を拠点に活動する情報セキュリティ勉強会「ばりかた研究会」を主催。2017年NICT入所。主任研究技術員として、ナショナルサイバートレーニングセンター3大事業のCYDER、CYBER COLOSSEO、SecHack365に携わる。2018年3月SECCON実行委員長に就任。

の日程を変更するよう懇願されました。

**S** そういう事情があったのですね。今回、国際大会出場チームの顔ぶれを見ていて欧米からの出場チームが少ないとは思っていましたが、本戦開催がクリスマスの時期だからと予想していたのですが、オンライン予選の日程衝突だったとは。

**H** はい。これまでオンライン予選の参加人数は右肩上がりが増えていたのですが、今年は昨年と比較して減少してしまいました。

## SECCON 2018 国際大会の出場チーム

チーム名	国籍・地域
Blue-Lotus	中国
TSG	日本
CodeRed	韓国
NaruseJun	日本
BlueBananaKing	韓国
DCUA	ウクライナ
noraneco	日本
Pwnight	韓国
urandom	日本
217	台湾
Balsn	台湾
GYG	韓国
CyKor	韓国
n5y5u1d5@AIS3 (招待)	台湾
PKDT (招待)	インドネシア

## SECCON 2018 国内大会の出場チーム

dodododo
Bluemermaid
YOKARO-MON
Team Enu
yharima
ids-TeamCC
m1z0r3
katagaitai
killswitch
spookies
ICSCoE
0x4556368625
insecure
ynuctf
Harekaze

**S** SECCON 2018 のプログラムを見ると、昨年と比べてカンファレンスやワークショップの数が増えるなど規模が拡大しています。これに伴って実行委員も増員されているのです。

**H** 数年前に増員しましたが昨年と比較して実行委員の数はそれほど変わっていません。個々の企画は各実行委員のほか外部の協力者も加わった「プログラミングコミッティ」というグループで運営されています。カンファレンスやワークショップの内容も、このプログラミングコミッティ内でアイデアを出し合い、良い案が採択されるという形をとっています。

**S** 何か特徴的な企画はありますか。

**H** 親子で参加できるワークショップを企画しました。「IT かるたを作ってみよう」「初心者向けプログラミング体験ワークショップ」の2つです。海外のイベントでは、参加者も運営スタッフも子供を連れてくるケースが目立ちますし、親子で楽しめる企画もあります。実行委員会内で意見が出て SECCON でも実施することにしました。

**S** それは楽しみです。ワークショップ会場に足を運んでみたいと思います。話は変わりますが、CTF の運営の方はどうですか。

**H** 実行委員会の他に問題作成で協力をお願いしているメンバーがいます。今年は国際大会と国内大会が同時に開催されるので、CTF に携わる方はより多くのパワーが要求されると思います。

**S** 問題作成で苦労する点などがあれば教えてください。

**H** CTF では出題して解かれてしまった問題は次に使うことができません。入門から初級・中級レベルの問題であれば、各ジャンルの基本的なテクニックやスキルを問うものを、その時々に応じて作成できます。しかし、上級レベルになると、新たなテクノロジーや日々発見されるぜい弱性などを問題に取り入れなくてはなりません。皆さん頭を振り絞って問題を作っているのが現状です。そこで昨年からはじめた取り組みなのですが、前年度に優勝した韓国チームの CyKor にオンライン予選の問題作成で協力をお願いします。

**S** よいアイデアだと思います。

**H** 他にもコンピューター・サイエンスの論文を題材にしたものも作成しています。例えば暗号の実装を問う問題で、復号するには論文を読んでプログラムを書く必要があるといったものです。これは参加者にもっとコンピューター・サイエンスに触れてほしいと思っているからです。

### CTF とセキュリティ人材

**S** 次に人財育成ツールとしての CTF について伺います。今でこそセキュリティ人材育成にとって CTF は欠くことができない存在として認知されていますが、SECCON が開始された 2012 年当時だ



SECCON 2017 国際大会の会場風景

と「ただの遊びではないのか」という意見もあったかと思います。このあたりの変化について感じていることがあればお願いします。

**H** SECCON 開始当初からすると現在の評価は信じられません。元々海のものとも山のものともつかないものが、今では NISC（内閣サイバーセキュリティセンター）などの方針で重点的に取り組む施策として取り上げられるようになったわけですから、見方が 180 度変わったといってもいいくらいです。

**S** ところで、人材育成において CTF が有効だと思われる側面はどこにあると思いますか。

**H** 前実行委員長の竹迫氏も言っていますが、ハッキングにはネットワークの知識をはじめ、CPU の仕組みや暗号技術、リバースエンジニアリングにいたるまで、幅広い要素が含まれます。CTF には競技者が持つスキルのレベルを可視化できる側面があると思います。

**S** そうですね。

**H** さらにもう 1 つ、CTF は競争であるという点です。「勝ちたい」という感情がスキルの向上に良い影響を与えていると考えています。多くの CTF では競技終了後に答え合わせの時間があります。例えば自分 1 人だけが問題に正解し、その解法を皆に説明する状況になったとしたらどうでしょう。それは CTF プレイヤーにとって名誉なことです。CTF はそういった感情をかき立てる競争の場として有効なのだと思います。

**S** 分かりました。現在では自組織内で CTF を開催する企業も出てきました。セキュリティとは直接関係しない開発系の部署のメンバーが CTF で力を発揮したといった具合に、人財を発掘するツールとしても活用されているそうです。この点についても何か意見があればお願いします。

**H** 大企業ではそのとおりですね。開発者の中にはセキュリティエンジニアとスキルセットが似ている人もいると思います。CTF はそういった人に脚光を当てて発見する場でもあります。話はそれますが、CTF ではシニア層のエンジニアも発掘できます。昔のエンジニアは低レイヤーを扱っていた人も多く、マルウェアの解析をバリバリこなします。

**S** 確かに。おっしゃるとおりかもしれません。

**H** かつて私が勤務していた日本アイ・ビー・エムでも社内 CTF を開催したことがありました。運営側にいるメインフレームの開発者から「汎用機のスキルセットを活用した問題を作りたい」という申し出もありました。

**S** 汎用機とはユニークですね。

**H** 一方で問題を解く側もセキュリティとは関係ない顧客対応の現場のエンジニアが優勝しました。昨年の SECCON 本戦に日本アイ・ビー・エムのチームが出場したのですが、チーム 4 名のうち、2 名はセキュリティ部隊で、残り 2 名は社内 CTF の成績優秀者という構成だったそうです。

**S** セキュリティ人材育成において、SECCON が果たしてきた役割について何か意見はありますか



NIRVANA 改による CTF 競技の可視化

か。

**H** 非常に難しい質問です。というのも、SECCON だけで判断できるものではなく、セキュリティキャンプや SecHack365 といった他のイベントとも密接に関わっているからです。上記のイベントでは運営や講師が重なっていますが、参加する学生も同様に重なっていることが多いです。少なくとも過去にこうしたイベントに参加してくれた学生が現在のイベントをスタッフとして支えてくれるようになったことだけは確かで、しかもその輪は確実に広がっているということだけは断言できます。

### 幅広い人たちに SECCON を楽しんでもらうために

**S** あくまで個人的な意見ですが SECCON の良いところは、専門家ではない幅広い人たちに向けて情報を伝えてくれるところにあると思っています。それは、CTF 競技の可視化であったり、過去問題の解説であったりします。

**H** 根底には情報を共有しようという意識があります。CTF では過去問の WriteUp を読めば解法は分かります。しかし、一般の人からするとそれはハードルが高いことです。ですから、昨年は平易に解説する場を設けました。今年は一歩進んでハンズオンで昨年の決勝戦で使った問題を体験してもらおうと思っています。

**S** これまた個人的な意見ですが、興味深い企画も多いので、SECCON に参加される方には是非ともプログラムを隅々まで見てほしいと思っています。

**H** ありがとうございます。実はこのインタ

ビューの時点 (12月10日現在) では Web サイトに公開されていないコンテンツがあります。SECCON を支援するスポンサー企業によるショートプレゼンで SECCON STAGE で開催されます。現在企画を募集しているところですが、セキュリティ先進企業の取り組みを見ることができると思います。

**S** 昨年からセキュリティ関連ツールを紹介する YOROZU というコーナーが始まりました。今年の応募状況はどうなのでしょう？

**H** 具体的な数は把握していないのですが、より多くの参加者を募集するべく締め切りの日程をずらしました。あくまで想像ですが、ツールを制作する人は、そもそも少ないのではないかと考えています。セキュリティの物作りに興味がある人がまだまだ少ない印象です。

**S** そうかもしれませんね。

**H** もし、来年も YOROZU を設けるのなら、オープンソースカンファレンスといった物作りのコミュニティと連携するのがよいと考えています。そしてこれは SECCON 全体の課題でもあります。例えばプログラミングする人にも来てもらいたい。それは問題を作る側としても来てもらいたいし、CTF プレイヤーとしても来てもらいたい、ということです。

**S** なるほど。

**H** 多くの方々から「SECCON イコール CTF」だと思われていますが、CTF はあくまで提供するコンテンツの1つです。SECCON はさまざまな人の興味に応じたコンテンツを提供するイベントをめざしています。

**S** 今のお話は実は質問しようと考えていました。SECCON は Security Contest の略ですから、やはり CTF が中心に据えられていると思っていたのですが、より大きく広げようとしているんですね。答えが聞けたようでうれしく思います。

**H** はい。CTF オンライン予選を勝ち抜いた人たちだけのものではなくて、この場所に集まった人たちが面白いと思ってくれる何かを提供し続けたいと考えています。

**S** 分かりました。本日はどうもありがとうございました。

# Human \* IT

人とITのチカラで、驚きと感動のサービスを。